

## 彫刻小品展 “箱の中の小宇宙”

彫刻の素材として石材の特徴や反応が、自身の感覚に照らして興味深いと感じたことから体力や腕力が、石という素材を手がけるにはそれほど向いていないにも関わらず、石材を用いて彫刻制作を行なうようになりました。

素材研究においては、焼成ガラスの制作を試みてきました。当初は、モニュメントのプランニングやギャラリー空間にて、彫刻の個展を行う際のエスキースとして、実際の空間の測量と図面を元にしてミニチュア模型を造り、形のあり方やレイアウトを検討します。これを繰り返すうちに、このプロセスを作品として成立させるようになりました。

石材は、地球の創成期に形成されてきた物質です。また黒曜石が天然のガラスなら、ガラスは人工的な石ともいえます。人類の文明の黎明期から素材として活用されてきました。石やガラスを素材として制作表現を行うことは、これらの物質から地球の歴史や時間を引き出すこと、表現することと捉えてきました。

石を素材とした彫刻の1つは、あさひまち展示館前のアプローチに設置させていただきました。

2Fのギャラリー空間においては、焼成ガラスを素材としたボックスアートの作品を展示します。



風の伏流 2006

A watervein of the wind

ギャラリー 141 名古屋市

風の伏流、エスキース 個人蔵



郷 晃 Akira Go

昭和 30 年 岐阜県出身

昭和 54 年 3 月愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了

昭和 55 年 3 月愛知県立芸術大学大学院研修生修了

平成 9 年 4 月新潟大学教育学部助教授採用（彫塑担当）（～平成10年3月）

平成 12 年 4 月新潟大学教育人間科学部教授就任（環境造形担当）（～平成20年3月）

平成 20 年 4 月新潟大学教育学部教授に配置転換（環境造形担当）現在に至る

平成 27 年 4 月新潟大学工学部人間支援感性科学プログラム兼担（芸術工学担当）現在に至る

平成 28 年 2 月新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館長（～令和2年1月）